

数値地質図 G-17 九州地質ガイド

発行年：2010

「九州地質ガイド」は、地質の専門家以外の皆様に、九州地方の地質（その土地の成り立ち）や地質と私たちの生活との関わり合いを御紹介し、楽しみながら九州地方の地質のエッセンスを学んでいただくことを目指して作成しました。天然記念物や火山など一般の方々が御興味をお持ちのもの、また実際に露頭を訪れたり博物館などで観察したりできるものを選んで、それらに対する平易な解説を心がけています。参考文献もできる限り学術誌などは避け、街の書店で購入可能なもの、あるいは市立図書館などで閲覧可能なものを紹介しています。（CD-ROM からの抜粋）

制作：地質調査情報センター地質情報出版室

「ジャンル別解説」ほか全体調整：牧本 博

「九州の地質概要」執筆：斎藤 眞

収納データ表示例

[トップページ]

九州地質ガイド

目次

- B. 岩石
- M. 鉱物
- E. 化石
- D. 鉱山
- G. 地形・地質
- V. 火山
- S. 地熱・温泉
- W. 地下水
- E. 環境地質
- H. 自然災害
- C. 土地地質
- N. 天然記念物
- P. 自然公園
- A. 博物館

○九州の地質概要
◆九州地質図
◆地形断面付地質図

○地質学用語
★自然遺産
★地質図利用情報
「地質図カテゴリー」
★目録みるるるい

●トップページ

九州地質ガイド

独立行政法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
2010年2月

[火山]

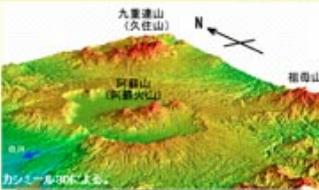
九州地質ガイド(火山)

V. 火山

VO1. 島ノほスコリア岳
VO2. 赤倉横火口
VO3. 瀧口火山群
VO4. 多良火口
VO5. 雲仙火山、平成新山
VO6. 阿蘇山
VO7. 由布岳
VO8. 九重火山群
VO9. 阿蘇の正堂
VO10. 阿蘇中岳
VO11. 赤松山
VO12. 大淵山
VO13. 阿蘇火口群
VO14. 阿蘇の正堂
VO15. 阿蘇山
VO16. 阿蘇の正堂

★火山索引地図
●トップページ

阿蘇中岳



丸葉山 (久住山) 阿蘇山 (阿蘇火口) 箱崎山

西側外輪山(七曲)からみた阿蘇カルデラ

中央火口丘群 南御谷

カシミール3Dによる

阿蘇火山の鳥瞰図。カルデラと中央火口丘群よりなる

阿蘇山は中央火口丘群の根子岳、高岳、中岳、島帽子岳、杵島岳の5岳よりなるが、一般には火山活動中の中岳をさす場合が多い。
山頂の最高峰は高岳の1592m(ヒコウニ=肥後国)



火口壁部にみられるアグリネート



中岳火口の南東に広がる砂千疊。黒色の火山砂を主体とし、溶岩片が散在する。黒石が分布することで有名である。

中岳(1506m)と中岳火口。火口は3重の構造をもつ。中岳の東方に最高峰の高岳(1592m)がある。
(国土地理院発行5万分の1地形図「阿蘇山」を使用)

火山活動中の中岳火口(2007年3月21日撮影)
火口西側壁から直視火口を見ることができる。

場所	熊本県阿蘇市、阿蘇郡南阿蘇村、阿蘇郡高森町
5万分の1地形図	「阿蘇山」 32.5304, 131.0507 (中岳火口)
文献	渡辺一徳 (1992) 阿蘇火山。日本地質学会第99年学術大会見学案内書。p.13-32。 渡辺一徳 (1999) 3. 阿蘇火山。高橋正徳・小林哲夫編。フィールドガイド 日本の火山-5。九州の火山。築地書館。p.49-66。 阿蘇山は九州のほぼ中央部に位置し、社大なカルデラと中央火口丘群よりなり、その

[地形・地質]

九州地質ガイド(地形・地質)

G. 地形・地質

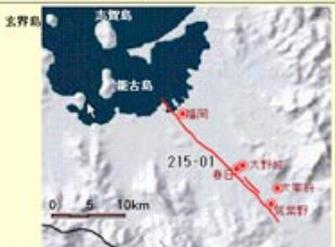
G01. 粟生の滝
G02. 平尾台のカルスト地帯
G03. 海の中道の砂丘
G04. 芥原の大門
G05. 糸島市の白糸の滝
G06. 小倉新築
G07. 豊後断層
G08. 水鏡断層系
G09. 原高瀬火砕流堆積物
G10. 玖珠盆地の火山地形
G11. 阿蘇-大分活断層帯
G12. 次郎の滝
G13. 鹿野の滝
G14. 熊山と熊野山
G15. 玉輪岩
G16. 神石
G17. シラスドリーネ
G18. 立野火口湖
G19. 船渡川
G20. ぶくた山
G21. 高瀬原台地
G22. 玉巻ヶ滝
G23. 熊の子滝
G24. ねっばい岩
G25. 湯正分岐
G26. 大瀬島と行徳山
G27. 白砂の海岸山麓性砂類
G28. 加久藤カルド少湿地
G29. 小杉市のシラス台地
G30. 熊地ぼろ
G31. 熊山山麓のケスタ地形
G32. 大瀬島の複雑構造
G33. 粟木の滝
G34. 大瀬島下層石
G35. 上瀬島の噴火岩
G36. 上瀬島の長目の滝
G37. 赤水温泉山麓
G38. 糸島三ツツツツツ

★地質索引地図
●トップページ

豊後断層 (福岡県の活断層2)



太宰府市大佐野地区でのトレンチ調査で出現した豊後断層



豊後断層(215-01)の位置と諸データ
(産総研RIO-DB 活断層データベースより)

一般走向 N50°W
一般傾斜 90°
断層の長さ 18km
断層型 右横ずれ
変位の向き (隆起側) 南側

場所	福岡市中央区、同南区、春日市、大野城市、太宰府市、筑紫野市
5万分の1地形図	「福岡」、「太宰府」 33.3054, 130.2928 (太宰府市大佐野地区でのトレンチ位置)
文献	千田 昇・岡田真正・中田 高・渡辺満久・鬼木史子 (1998) 1:25,000都市圏活断層図「福岡」。国土地理院技術資料 D-1-No.333。 産総研RIO-DB 活断層データベース http://riodb02.ibase.aist.go.jp/activefault/ 福岡県 (1998) 平成7-8年度地質調査研究交付金成果報告会予稿集 (科学技術庁)。 豊後(けこ)断層は、福岡市の中心部から南東に及び、春日市、大野城市、太宰府市を経て筑紫野市に達する活断層です。平成17年3月20日に発生した「福岡県西方沖地震」の本震・余震分布がこの断層系の北西延長上に位置していたことから、一気にこの断層に対する関心が高まりました。 豊後断層については、平成7-8年度に詳細調査が行われました。しかし、その調査で

[陰影付地質図]

